

(公財) 福島県国際交流協会では、震災からの復興に向けた取り組みや国際交流・協力団体の活動、外国出身県民の声など、福島県の「今」を多言語にてお伝えしています。

※本紙の翻訳版は、当協会 HP からダウンロードできます。



Voices from Fukushima

福島県経済交流員 ドイツから新たに着任

2018年8月に福島県庁の産業創出課 医療関連産業集積推進室にドイツ出身のズィモン・エスラーさんが経済交流員として赴任しました。これまでに東京、金沢、沖縄に住んだことのあるエスラーさん。「東北は旅行で何度か訪れたことがあっても暮らしたことはないの、ここに暮らしながら福島や東北各地の魅力を発見していくのを楽しみにしています」と語っていました。

赴任して約4カ月、お仕事の内容や現在の心境などをお伺いしました。(インタビュー日：2018年12月25日)



-エスラーさんの出身地のことを教えてくださいませんか？

ノルトライン・ヴェストファーレン州 (NRW 州) のビーレフェルトという町で生まれ育ちました。大きな森とお城がある、福島市より人口が少し多い町です。

大学時代と卒業後はデュッセルドルフで暮らしました。

-日本に関心を持ったきっかけは？

高校の時に友人から村上春樹の本をもらったことがきっかけで日本の文化に興味を持つようになりました。日本文化は調べるほど面白い発見があって、文学だけではなく音楽などさまざまなことに夢中になりました。

初めて日本を訪れたのは、今から約14年前です。高校卒業後の長い休暇中に世界一周旅行をして、日本に1週間滞在しました。

-お仕事についてお聞かせください。

福島県の産業創出課で再生可能エネルギーと医療機器産業関連の業務を担当しています。私は主に、福島県とドイツで年に数回開催される医療機器と再生可能

エネルギーの展示会開催に携わっています。現地とのやり取り、福島県内の企業のサポートなどをしながら、ドイツと日本を行き来しています。いまは、2019年2月にエッセン市で行われる『E-world energy & water 2019』の準備をしています。これはヨーロッパ最大級の規模を誇るエネルギー関連産業国際展示会で、海外への販路拡大を希望する福島県の企業もいくつか出展します。

医療機器も、再生可能エネルギーもこれまで触れたことのない世界だったので、毎日が勉強です。

-どんなときにやりがいを感じますか？

何週間もかけて準備をするので、やはり展示会の当日を迎えるときは特別にやりがいを感じます。

また、いろいろな製品を作っている企業の方との関わりにも楽しさを感じています。

-福島はいかがですか？

街の中に信夫山がある福島市の風景を気に入っています。休日は積極的に街の探検をしています。いまの仕事に就いた

ことで、福島の発展に何が必要かと考えるようになりました。将来を担う若者が増えるよう、福島が若者にとって魅力のある街になっていくといいなと思います。

-2022年の全原発停止を方針としたドイツですが、ドイツ国民の福島県への関心度はいかがですか？

福島のごことは誰もが関心を持って見えています。ただ、正しい現状はあまり伝わっていないように思います。

ドイツの人たちはチェルノブイリが近いこともあって、福島の事故の前から原発には関心を向けていました。また、CO₂削減にむけたグリーンエネルギーの活用など地球環境保護に対する意識は高いです。

-これからやってみたいことは？

電車の旅が好きなので青春18切符を使っていろいろ行きたいと思っています。今は、只見線に乗って会津若松と新潟に行く計画を立てています。既に県内の4分の1の市町村に行ったので、まだ行ってない場所も訪ねてみたいです。

パレスチナ自治政府職員 被災地で研修



長期化する難民キャンプの生活改善に東北被災地の復興支援策を取り入れようと、パレスチナ解放機構（PLO）難民問題局（DoRA）の職員 7 名が浪江町を訪れました。

浪江町は、東日本大震災の地震と津波で大きな被害を受け、その後福島第一原発の事故による影響で全村避難を余儀なくされました。2017 年 3 月 31 日まで町内全域に出された避難指示は、2018 年 12 月現在、帰還困難区域を除く区域で解除、約 17,000 人の住民のうち約 800 人の住民が町に戻っています。

一行は、浪江町職員の案内で町内の現状を視察後、役場庁内で浪江町の復興支援策を学び、その後、吉田数博町長と懇談しました。

DoRA 職員のファディアさんは「町外に避難している住民も含め、全住民に行政サービスを届ける姿勢に感銘を受けました。また、町民の交流の場を定期的に設ける施策は参考になります。ただ、パレスチナ難民キャンプは長期化しており、誰がどこに避難しているのか把握しきれないため、同様の施策を行うには課題が多いです」と語りました。

自らのルーツに理解を深める

中南米・北米に移住した県民の子弟 9 名がブラジル、アルゼンチン、ペルー、ドミニカ共和国、米国より 10 日間の日程で来県しました。この中南米・北米移住者子弟研修受入事業は、研修生のルーツと、県の復興への取り組みに理解を深めてもらうため福島県が行っています。

研修生は 10 日間の滞在中に、副知事との懇談や県環境創造センターの見学、スキー、会津の名物料理ソースかつ丼作り、蒔絵、茶道体験、そして 3 日間のホームステイなどを行いました。

ハワイ島福島県人同志会のミッシェーケイコミヤシロさんは、「とても楽しかったです。自分の家族に由来のありそうなお寺を訪ねることもできました。祖母もきっと関心を持ってくれると思います。帰国後、さらに調べてみようと思います。震災については、ハワイでも津波の歴史があることから、津波被害に遭った人がどうしているか心配をしていました。」と感想を述べました。



2 時間の世界旅行～今回の行き先は英国！

当協会は、1 月 19 日（土）白河市で「グローバルコミュニケーションカフェ」を開催しました。この日は、イギリス出身のゾーイ・ヴィンセントさんを講師に迎え、イギリスの暮らしや料理、習慣を紹介していただきました。

次回の開催は当協会ホームページや SNS でご案内しています。みなさまのご参加をお待ちしております！



多言語による復興情報「ふくしま復興ステーション」

福島県の復興状況の最新データや食の安全・安心に向けた取り組み、福島を応援する方々の活動など 9 言語（日本語・英語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・スペイン語・ポルトガル語）で発信しています。
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/>

情報をお寄せください

みなさまからのご意見や感想をお待ちしております。また、取り上げてもらいたい情報や Voices from Fukushima にご登場いただける県在住外国出身者の情報もぜひお寄せください。自薦・他薦は問いません。

● FIA Information

外国出身者のための生活相談窓口

当協会では、外国語で外国出身者からの生活相談に応じています。

英語・中国語・日本語

韓国語・タガログ語・ポルトガル語

毎週火曜日～土曜日

木曜日 10:00～14:00

9:00～17:15

※第 4・5 木曜日は事前予約が必要

☎024-524-1316

✉ask@worldvillage.org（相談専用）

● 発行者

（公財）福島県国際交流協会

〒960-8103 福島県福島市舟場町 2-1 福島県庁舟場町分館 2 階

TEL 024-524-1315 FAX 024-521-8308

E-mail info@worldvillage.org

URL <http://www.worldvillage.org>

Facebook <https://www.facebook.com/fiainfo>

Twitter https://twitter.com/fia_info